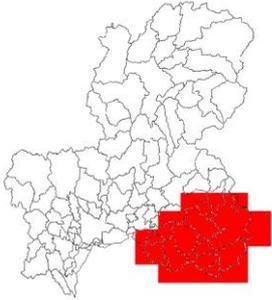


ミカワシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>oppositifolia</i> (Miq.) T.Yamaz. var. <i>microphylla</i> Honda	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(加藤範夫)  
形態の特徴	高さ35-100cmになる多年草。ほとんど分枝しない。葉は30-40枚つき、下部のものは対生、上部では互生する。葉身は狭卵形～広披針形、縁には重鋸歯がある。花期は9-10月。花は茎の先端に集まるか上部に穂状につき、花冠は紅紫色、長さ20-25mm。	
生態的特徴	湧水湿地の日当りのよい場所や林縁に生える。	
分布状況	日本固有の種。本州中北部に分布する。県内では県南の南東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の南東部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良